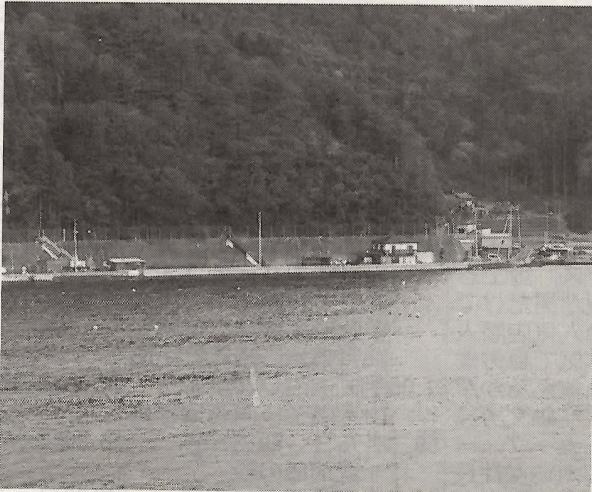


# L1防潮堤は造らず

小々汐地区 居住者なく県道のり面代替え

県は、気仙沼市の小々汐漁港から蜂ヶ崎までの間に予定していた防潮堤（L1対応型・延長約6333㍍）を整備しない方針を明らかにした。背後地に整備される県道大島架橋線（海拔20㍍）のり面が防潮堤の代替えになることや、居住者がいないことなどが主な理由。小々汐の漁港整備については、既存防潮堤の地盤沈下分をかさ上げを行うなど原形復旧する。

28日夜に浦島小学校で開かれた説明会には、地域住民ら約20人



L1防潮堤の整備を見送った小々汐地区

かさあげする。住民からは、地区内付近の荷揚げ場の復旧や漁港内の栈橋の水深改善、県道が整備されるまでの避難道確保などを求める声もあった。県は原形復旧作業について本年度中に調査、設計を行い、来年度から建設に着手したい考えだ。

防潮堤を整備しない方針に対して市は、同地区の漁集事業計画の見直しを行うことになっている。11月中に同漁港利用者に土地利用などについて説明会を開く。

同地区の水産加工業の男性（85）は「防潮堤がないので、浜での作業が楽になる。大島架橋線ができるまでの避難道整備も必要」と話していた。